

「私たちを強くする方、知恵に富む唯一の神に栄光が ありますように」ローマ16：17-20，25-27

堀田修一 24・11・24

I パウロの最後の勧め

1. 「学んだ教えに背いて、分裂とつまずきをもたらす者たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい」：17。ローマの教会は、彼自身が開拓した教会ではなかった。それ故、礼を失しないように敬意を込めて記してきた。しかし、この手紙の最後の部分のこの17節から語調が強くなる。そこには理由があります。実は、この節にある「分裂とつまずき」に備えるためにこそ、パウロはこの偉大な書簡を書いたのです。私たちは、主を信じて、聖書に明確に記されていない事で、意見、考え方に違いがあることは当然のことです。その時に、悪魔が教会に仕掛ける攻撃は、意見、考え方の違う人とは一緒にやっていけないと思わせ分裂させる誘惑です。それに対処する聖書の教えは、「意見と人格を区別し、意見が違って、神が与えられた人格を受け入れ合い、主にあって一致を保ち対話をしていくこと」です。この手紙は、実はまさに、主の教会を内側から切り崩そうとする恐るべき偽教師の欺瞞を粉碎し、福音宣教の基盤を再確認するためでした。パウロはここで、これらの論敵、偽の教えと、詳しく討論しようとしていません。「分裂とつまずきをもたらす者たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい」と語ります。ここから私たちが、教えられることは、偽の教えを深く学ぶことや偽教師と議論することに時間やエネルギーを費やすのではなく、警戒し、彼らから遠ざかり、その代わりに、聖書の教え、みことばをますます学び、真理のみことばの武具を身に着け、みことばの恵みに満たされる事です。偽の教えを見分ける最大の防御は、常に本物の聖書の教えを学び、心の目で見つめ続けることです。※時間、エネルギーの使い方の分別。

2. 偽教師の教義がどのようなものであれ、その背後に潜む精神の正体は→「そのような者たちは、私たちの主キリストにではなく、自分の欲望に仕えているのです。彼らは、滑らかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています」：18。「自分の欲望に仕えている」の「欲望」の原語は「腹」。日本語でも、悪い欲、動機が不純なことを「腹黒い」と表現します。※選挙の時にも感じる事。人は皆、原罪があり罪人で、真の神にではなく、自分の欲望を神とし仕えている。昔も今も、異端、偽教師は、真の神にではなく、自分の欲望に仕え、滑らかな言葉、へつらいの言葉をもって純朴な人たちの心をだましています。私は、このみことばの通りだと常々思っています。異端、偽の教えの信者さんは、犠牲者だと思われる。聖書の教えよりも、そこの指導者、教祖に仕え、崇めるようになっている。「聖書はこう言っています」と言っても「私たちの教祖様、指導者の教えはこうです」と言われる。聖書的な対処＝「彼らから遠ざかりなさい」：17→「あなたがたのところに来る人で、この教えを携えていない者は、家に受け入れてはいけません。あいさつのことばをかけてもいけません」(Ⅲヨハネ10)。※証し。教訓。

3. 「あなたがたの従順(正しい福音への従順)は皆の耳に届いています。ですから、私はあなたがたのこと(存在)を喜んでいます。なお私が願うのは、あなたがたが善にはさとく、悪にはうと

くあることです」：19。「善（主が喜ばれる事、主の教えを深く知る）にはさとく（原語：熟練する、知恵のある、賢い）悪にはうとく（悪に染まらない、純真、混じりけのない）」とは、悪、間違った教えの実態を知り尽くそうとすることは、逆にこちらが引きずり込まれる一歩となる。サタンとの戦いにおいて、決して自分の力を過信してはならない。むしろ「善にさとく」、つまり、善そのものである主と主の教え、聖書全体を深く学び知り続けることに力を注ぎなさいということです。※偽物を識別するには、常に本物を学び、見続ける事です。偽物は多くあり、本物は一つ。※本物を見続ける大切さ。魚・植木・メロン・聖書。

4. 「平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます：20。サタン、悪魔は、教会と世の平和を、分裂、分断、偽の教え、争いで壊そうとしています。もし、天と地を造られた平和の神がおられなければ、この二千年間、世界宣教、世界中の教会形成は、進んでいないでしょう。サタン、悪魔は、主の十字架と復活の力で、大打撃を受けましたが、現在も最後のあがきとして、世界に戦争をさせ、主の教会の平和、一致を壊し、分裂させようとしています。しかし、神は、サタン、悪魔という敵に打ち勝つために私たちには、偉大な神の武具が与えられています。失望する必要はありません。「主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神の全ての武具を身に着けなさい」（エペソ6：10、11）。神が与えられる武具とは、真理のみことば、平和の福音、信仰の盾、神の素晴らしい救い（罪の赦し、永遠のいのち）、御霊の剣である神のことば、すべての聖徒の為に忍耐の限りを尽くしての祈り合い、教職者と信徒の祈り合いの支えです（6：14-20）。平和の神は、速やかに（神の時に。ある時はこの地上で神は私たちがサタンから守られ勝利される。最後の勝利の完成は世の終わりの主の再臨の時に→「彼らを惑わした悪魔は火と硫黄の池に投げ込まれた。…昼も夜も、世々限りなく苦しみを受ける」黙20：10）、あなたがたの足の下（あなたがたが信じている主の力で。エペソ6：15の神の武具は「足には平和の福音」とある。足に平和の福音を備え、サタンと戦う時に）でサタンを踏み砕いてくださいます（サタンに勝利してくださる）。これはパウロの確信であり、待望であり、また祈りでもあった。それゆえに「どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように」と20節の最後にあります。

II ローマ人への手紙の最後の頌栄

1. 「私の福音（私が信じ宣べ伝えている福音）、すなわち、イエス・キリストを伝える宣教によって、また、世々にわたって隠されていた奥義の啓示によって—」：25。「奥義」とは、かつては知ることができないものだったが、今や神の意志により、啓示（主の受肉と聖書）という形をとって信じる者すべてに受容され把握される真理、また、今すでに実現し、永遠という次元における完成を目指して進みつつある神の御計画、意図、その御業（救いの始まりから完成）のすべてが奥義。これらを歴史的事実として人間に教え、体験させられるイエス・キリストご自身こそ、奥義中の奥義なのです。※HBIで教えられた証し。

2. 「永遠の神の命令にしたがい、預言者たちの書（旧約聖書）を通して今や明らかにされ、すべての異邦人に信仰の従順（主を信じ救われ主について行く）をもたらしするために知らされた奥義（福音・キリストご自身）の啓示によって、あなたがたを強くすることができる方」：16。神は、私たちが、試練、苦難、弱さの中で、倒れそうな時も、奥義そのものである主ご自身とともにおられる恵みで、私たちに強め支えて下さいます。※私も皆さんも。今日まで。今、苦難

の中にある方々も強くされる主に頼りましょう。

3. 「知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって（原語：通して）、栄光がとこしえにありますように。アーメン」：27。「知恵に富む唯一の神」＝人類救済のために人知をはるかに越えた知恵、御計画を持って働いておられる唯一の神。この偉大で愛と知恵に富む神に、イエス・キリストの恵みを通して、人々が神に近づき礼拝し、栄光がとこしえにありますように。「神はすべてをともに働かせ益とされる」8：28。どんなものも、試練、苦しみ、悪魔も「主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」：39。どんな時も失望せずに全能の神を信頼し祈り礼拝、賛美しましょう。

本日でローマ人への手紙の講解説教を終えます。力強く、知恵に富み、愛とあわれみの偉大な救いの神を心から賛美し栄光を帰します。240番「ほめたたえよ、力強き主を」をもって神を賛美しましょう！